

# 旭川荘療育アカデミー講義概要〔シラバス〕

平成24年度

## ケアの「質」対「生活の質」(QOL)」実践論

障害児・者の医療・保健・福祉・教育の実践は、ノーマリゼーション理念の浸透にあわせて利用者中心のものとなってきた。とはいいいながら、専門的な治療・教育・支援の質（「ケアの質」）を確保した上での「生活の質（QOL）」の向上でなければならない。国際的動向とともに現場実践の成果と方向性を紹介する。

## 行動（習慣）のしくみと障害

ヒトは生活の中で、さまざまな行動をしている。生まれてから後に環境とのかかわりで、行動習慣を獲得し、環境に働きかけまた適応しながら生きていく。こうした行動のしくみを学習心理学、行動心理学の成果を紹介しつつ、障害との関係についても考える。

## 障害福祉制度の動向

障害福祉制度は、措置制度から契約による利用制度に転換し、障害者自立支援法の施行によって、障害を問わず共通のルールにより利用できるようになり、施設体系は、支援機能に着目した新体系に移行した。24年度からは障害児施設の体系も、段階的に新体系に移行する。今後、自立支援法が「障害者総合支援法」に引き継がれる見込みであるが、そうした動向について学ぶ。

## 障害と精神医学の基礎知識

障害児（者）は、時に行動障害を引き起こすことがあり、その場合には精神科薬物療法を受ける必要が生じる。さらに、行動障害の背景にさまざまな精神科疾患が関連していることもある。

そこで、発達障害への理解を深め、適切な支援を実践するために、精神医学を体系的に学ぶ。

## 発達障害の診断と援助

総論として発達障害とは何か説明し、各論としてそれぞれの発達障害の診断・支援について医学的視点を中心に話す。

## 障害者の権利擁護と相談支援

障害福祉サービスも障害者自立支援法によってから新たな法律の制定等への意向が図られている。その中で、平成24年度より相談支援の内容も新たな祖システムへと移行する、また権利擁護の面でも10月から障害者虐待防止法は施行される。こうした状況を受けて改めて障害者の権利擁護の基本的な考え方と制度の仕組み、障害者虐待防止法や成年後見制度や福祉サービス利用援助事業等の内容と相談支援の役割について述べる。

## 広汎性発達障害とは

広汎性発達障害（自閉症を中核とする）のある人が、地域社会で自立的に生活するためには、その人が自分の置かれた環境の意味を理解することが必要である。構造化とは、環境の意味を理解しにくい広汎性発達障害のある人が、その意味を理解し、「一人でわかってできる」ことを増やすための支援ツールである。

支援にあたっては、障害の特性理解が必要である。社会的対人関係の障害、コミュニケーションの障害、想像力の障害とそれに基づく、こだわりや興味の限局などの特長についてそれらがどのようにあらわれるのかをみていく。また、対応について考える。

## 脳のメカニズムと障害

障害福祉の領域には、知的障害、運動障害、行動異常、痙攣発作など、脳が関与する病状が多い。脳の構造とその機能について、脳の各部位がどのような役割を有するか、その概要を解説する。

## 広汎性発達障害と自閉症

広汎性発達障害や自閉症にはどのような障害特性があり、適切な支援を行う上で、それらをどのように理解し支援に結び付けていくのかを考える。

## 高次脳機能障害と日常生活・社会生活

高次脳機能障害は脳卒中や交通事故による脳の損傷で、記憶・注意・言語・思考・判断・社会的行動などに多彩な症状を生じる。本講義では、高次脳機能障害の特性を、①日常生活や社会生活上のエピソード、②テレビのドキュメンタリー番組、③当事者家族の手記、などを通して理解することを目的とする。また、高次脳機能障害者への社会的支援の現状についても述べる。

## 広汎性発達障害と構造化の意味

本講義では、構造化のアイデアに触れながら広汎性発達障害の特性から来る生活上の困難さをライフステージ別に挙げる。それにより発達の早期からその人に合った構造化を取り入れることの大切さについて述べる。

## 心理アセスメントとは

発達障害を持つ方の心理アセスメントについて説明をする。さらに、心理検査の種類と特徴、活用の仕方について述べる。

## 心理アセスメント（田中ビネー式知能検査）

田中ビネーV知能検査、新版K式発達検査を取り上げ、その概要を説明し、広汎性発達障害にみられる検査結果の特徴について説明をする。

## 行動とアセスメント（太田ステージ）

認知発達の有用な検査である「太田ステージ」を紹介し、参加者には実際に検査を行ってもらおう。

その後、ステージごとの全体像と具体的な療育課題を紹介する。

### 行動とアセスメント（課題分析）

発達障害児・者の支援計画を立てる上で、日常生活場面の観察に基づいた評価は重要な情報源となる。この講義では、身辺自立、家事、余暇、地域生活での買い物や交通機関の利用といった様々な活動を支援する際に有用な「課題分析」について学ぶ。

### 心理アセスメント（知能検査・WIPPSI-WISC-III）

WISCの幼児版であるWIPPSI知能検査について紹介し、検査の概要や結果の読みとり方、発達障害（特に広汎性発達障害）に見られる検査結果の特徴について、事例を交えながら考えていく。

### 心理アセスメント（発達障害・PEP心理教育プロフィール）

広汎性発達障害の評価、療育のため作成されたPEP-Rを取り上げ、その概要を説明し、広汎性発達障害児に見られる検査結果の概要を事例を通して考えていく

### アスペルガー症候群の人たちへの支援

アスペルガー症候群について、前半で基本的な支援の考え方を述べると共に現在、専門機関で取り入れられている技法について紹介し、後半、Q&Aで相互に理解を深めていきたい。

### LD（学習障害）の支援技法

学習障害とそれに隣接する各種の障害との差異を考察しながら、学習障害の実際的なタイプの見分け方と具体的な指導方法を学ぶ。

### ADHD（注意欠陥多動性障害）の支援技法

本講座では、ADHDの基本的な行動特性と対応法について紹介する。そのなかで、情緒を安定させるための対応法や特に問題視されやすい崩壊性行動のコントロール法、あるいは多動性や衝動性へのコントロールの仕方などを学ぶ。さらに、ADHDの経年変化のなかで、「ADHDが大人になると」という未来予想図を示す。

### 発達障害のある子どもたちの情緒的問題への対応

軽度発達障害のある子どもたちの情緒的問題と、その発生メカニズムの基礎を学ぶ。そのうえで、情緒障害児短期治療施設・津島児童学院での支援実践から、この問題に対する支援の実際を学んでもらう。

### 発達障害児と虐待

虐待の発生要因には、保護者要因と子ども要因があるとの説がある。それぞれについて理解することで有効な支援につなげたい。

## 行動障害とは

行動障害に関する概念や成り立ちなどを概観し、行動障害に関する知識を整理する。また、行動障害をテーマとした実践報告、研究論文を紹介し、その知識を深める。

## 行動障害の支援技法

TEACCHプログラムをベースとして「構造化療育」を実施してきた知的障害者更生施設いづみ寮「強度行動障害支援事業」での実践事例をもとに紹介し、行動障害に対する個別支援プログラムの在り方を検証する。

## 保育の現場に求められる支援と地域連携

保育現場では、いわゆる気になる児・グレーゾーンの子が、年々増えてきているようです。平成20年に幼稚園教育要領と保育所保育指針が改定され、障害のある子どもたちが、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置づけされたことで、近隣の幼稚園や保育園への入園を希望する幼児が増えている。そういった中で、保護者の期待は大きい。その保護者のニーズに応えられる支援はどうあるべきか、考えていきたい。

## 不登校の今日的意義と子どもたちへの支援

不登校問題の歴史と対応・対策の検証について学ぶ。

## 幼児期の家族支援のあり方

「幼児期」の家族支援とは何なのか。家族をめぐる現状と課題について考えながら、家族支援のあり方を探っていきたい。

## 発達障害と就労

発達障害のある人がライフステージを通して、自分らしく生活するために必要な就労支援、準備支援のあり方を考える機会としたい。

## 発達障害児の早期発見 —津山市における早期発見のシステム—

乳幼児期の発達の著しい時期に発達を促し、豊かな育ちを支援することは、保健行政上重要な課題である。育児に不慣れな親、発達に課題を持つ乳幼児に対し、育児支援の視点からのサポートを提供することが必要である。行政における母子保健サービスの概要と、発達障害等の早期発見やその後の療育へつなぐ仕組みについて述べる。

## 療育の実際 —学童期につなげたい力—

津山市の療育機関として就学前の児童デイサービス、18歳までの療育相談、巡回相談を実施している。具体的にどのような療育を行っているのかを解説する。年齢や障害のタイプに応じた内容や取り組み方、学童期を意識した幼児期の課題設定などについて述べる。また、保護者との関わり方についても事例を挙げながら紹介する。揺れる保護者の思いに寄り添いながらも療育への動機づ

け、診断の受け止め、将来的な見通しを持たせた継続的な支援について考えていく。

#### 発達障害児への支援の実際（幼児期編）

幼稚園での保育と療育の関係について、事例をもとに援助のあり方や、保護者との連携のあり方を考える。さらに、特別でない特別支援教育、クラス・集団作りについて述べる。

#### 発達障害児への支援の実際（思春期編）

思春期を迎えた子どもたちの中には、精神的に不安定であったり、イライラしたりするものである。その中で、発達障害を抱える子どもたちは、小学校から中学校へと環境の変化と格闘しながら、自分の進路を考えていく時期を迎える。中学校は義務教育の最終段階であり、卒業後の進路は生徒や保護者にとって最大の関心事となる。発達障害をかかえている生徒の進路選択や通常学級で生活する生徒の事例報告を中心に今日の進路選択の現状を考えていく。きます。また、小学校との連携や、進路先との連携について考えながら、発達障害をかかえる子どもたちへの継続的な支援方法について考えていきたい。

#### 療育の実際（個別療育・集団療育）

旭川荘療育センター児童院で行っている療育について、事例や具体的な活動例を交えながら述べる。

#### 幼児期の個別支援プログラム作り

「個別プログラム」作りは、一人ひとりの子どもの発達を支援するために欠かせない。支援者は、子どもの日々の療育や保育にあたり、計画を立案するが、「個別プログラム」とはこうした療育計画、保育生活のことを表すものではない。また、「個別プログラム」は、支援者が独自に保有するものではなく、家族に開示し、家族を始め子どもに関わる全ての支援者が、個々の発達状況や特性についての共通理解を持ち、一貫した支援をするために活かされるものである。講義の中では、「個別プログラム」作りのための準備、手順、活用の仕方について、我々の実践を紹介する。

#### 青年期・成人期の活動プログラム

発達障害（ここでは比較的重度の知的障害や自閉種を想定）をもつ青年期・成人期の方々の活動を支援する際の基本的留意点を示し、活動の内容や組み方の事例を示す。

#### 福祉サービスの個別支援計画の作成

利用者のニーズを的確に把握し、その自己実現と生活の質の向上を図るために、個別性を重視したきめ細やかな支援が求められている。そのための個別支援計画の作成と実施の手法について述べる。

#### 高機能自閉症の支援技法

自閉症の三大症候である視知覚優位、シングルフォーカス、想像力やイメージの乏しさを踏まえた上で、「目で見て分かる支援」を考える。そして、高機能自閉症の人たちが一般社会で、その人らしく生活していくためには、どのような支援が必要になるのかを考える。

### 学齡期の落ちつきのない子どもたちへの適切な対応について

子どもたちの表面に現れる行動だけに目を向けるのではなく、目に見えない子どもたちの気持ちや認知面に注目し、適切な対応の仕方について検討をする。

### 思春期への発達障害児へのかかわりについて

発達障害児がむかえる思春期というライフステージを概観した後、小集団場面での支援の紹介や、事例について考えるとともに、卒業後の社会生活に向けて、この時期に大切なことは何かについても考える機会とする。

### 発達障害支援・連携支援のあり方

発達障害のある人がライフステージを通して、自分らしく生活するために必要な発達障害支援・連携支援のあり方を考える機会としたい。

### 岡山県における発達障害支援の現状と課題

現在まで発達障害者支援センター運営事業等の中で行われてきた「おかやま発達障害者支援センター」の現状を報告し、岡山県における発達障害支援の課題について考える。

### ことばの発達と療育の実際

旭川児童院での、幼児期の言語聴覚療法の実際について（評価・目標設定・療育方法・使用教材・家族支援等）紹介する。